

# 2019年度 公開教育研修会 (第2次案内)

## 第3回「学びあいの場」

子どもの姿から学びあう授業研究  
- 教師自身の見方・考え方を培う -

令和元年7月6日(土)

◆後援◆ 富山県教育委員会、富山県特別支援教育研究会、富山大学大学院教職実践開発研究科  
富山県特別支援教育知的障害教育研究協議会、日本教育公務員弘済会富山支部

本校では富附特支型研修「学びあいの場」に取り組み、教師の「子どもの見方・考え  
方」を豊かにするために、教師自身が「主体的・対話的で深い学び」を体験しています。



問題を解決する対処法はもちろん大切ですが、どの対処法が、今、目の前の子どもの実態に合っているのか、子どもの状況をしっかり理解することも同じように重要です。しかし、その理解は独りよがりなものではなかったでしょうか？子どもたちを理解する術について、私たちは学んできたでしょうか？

本校が提案する「学びあいの場」では、目の前の子どもたちが何をどう感じて行動したのか、同僚と対等な仲間として「解釈」を出し合うことによって観る目を高めます。それは、子ども理解を共有することにつながり、教師の「同僚性」を育てることにもなります。

学びあい高め合う教員育成を目指す本校の取組にご参加いただき、ご意見を賜りますれば有難く存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

校長 布村 忠弘

### 日程

8:10 8:35 8:45 9:15 9:25 10:15 11:00 12:30 13:30 15:00 15:10 15:20 16:50

受付	開会	講話	公開授業	公開ワークショップ	昼食	講演	閉会	ラウンドテーブル※
----	----	----	------	-----------	----	----	----	-----------

※参加者による意見交換会です。

### 講演

#### 学びのデザインとリフレクションー学びの共同体の挑戦ー

東京大学 名誉教授

学習院大学 文学部 特任教授 佐藤 学 先生

(講師プロフィール)

1951年広島県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学名誉教授。学習院大学文学部特任教授。日本教育学会前会長。国内外数千校の学校を訪問し、学びの共同体の学校改革の研究と実践を積み上げている。

(主な著書)

『学校を改革するー学びの共同体の構想と実践』岩波書店 2012年

『専門家として教師を育てるー教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店 2015年

『学び合う教室・育ち合う学校』小学館 2015年

他多数

## 講話

「学びあいの場」の意義、成果と課題（仮題）

「学びあいの場」プロジェクト

教諭	瀧脇	隆志
教諭	本田	智寛
教諭	上田	崇史
教諭	砺波	祐樹

※教員免許状更新講習を兼ねます。

## 公開授業

授業者の思いや、授業の中の気になっていることなどをまとめたブリーフィングシートを事前に読み、授業を参観します。参観者は、気になった場面について、詳細にメモをとります。

学部	単元名・題材名	授業会場	授業者
小学部	算数「あつめて わけて かぞえよう」	小1教室	西井 奈緒
中学部	数学「生活の中の表を読み取ろう、活用しよう」	中3教室	上田 崇史
高等部	数学「図形を知ろう～図形の作図～」	高2教室	金森 光紀

## 公開ワーク ショップ

気になった場面の子どもの姿を青ラベルに、その解釈（内面の推察）を赤ラベルに書いて持ち寄ります。これらのラベルを基に、解釈を聴きあいます。更に授業者と聴きあい、子どもの内面に迫ります。

## ラウンド テーブル

皆さまから、本研修プログラムに参加してのご感想やご意見等を頂き、改めて子どもの姿から教師が学びあう授業研究の在り方について、お互いの理解を深めたいと思います。

## 参加申込

本校HP（URL <http://www.fzks.fuzoku.u-toyama.ac.jp/>）から専用フォームにてお申し込みください。

事前申し込みは、2019年6月28日（金）までです。（※当日受付も可能です）

## 参加費

一般2,000円、学生1,000円を当日受付で申し受けます。

（富山県特別支援学校知的障害教育研究協議会会員 1,500円）

## 昼食

弁当等の販売はございません。学校近くの飲食店、コンビニエンスストア等をご利用ください。

## アクセス

【交通】富山駅よりバス10分「新桜谷町行き 呉羽山老人センター行き」附属学園前下車

【駐車場】本校グラウンドをご利用ください。

## 「学びあいの場」年間予定

回	日時	回	日時
第1回	5月27日（月）AM:公開授業・PM:公開ワークショップ	第5回	10月9日（水）PM:公開授業・公開ワークショップ
第2回	6月26日（水）AM:公開授業・PM:公開ワークショップ	第6回	11月27日（水）AM:公開授業・PM:公開ワークショップ
第3回	7月6日（土）AM:公開授業・公開ワークショップ	第7回	12月11日（水）AM:公開授業・PM:公開ワークショップ
第4回	9月25日（水）AM:公開授業・PM:公開ワークショップ	第8回	1月22日（水）PM:公開授業・公開ワークショップ

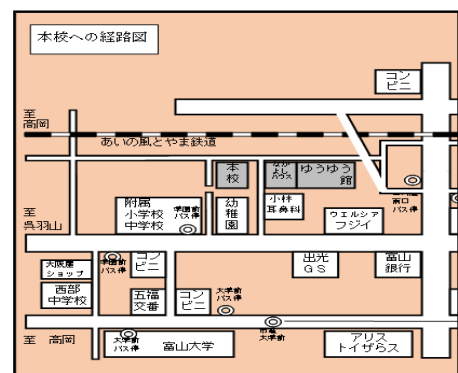
## 問い合わせ

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

〒930-8556 富山市五艘1300

TEL (076) 445-2809 FAX (076) 445-2811

Email : tokushi@fzks.fuzoku.u-toyama.ac.jp



# 富附特支型研修「学びあいの場」

“教師の「子どもの見方」を豊かにする学びあい”

「学びあいの場」の目的は、教師の「子どもの見方」を豊かにすること、「子どもを見る力」を高めることです。授業のねらいが達成できたかどうかや、授業改善の方法といった答えを出すことではありません。

授業中の気になる子どもの姿から「なぜあの時～したのか」という問いを立て、参観者と授業者が互いの解釈を聴きあいます。その過程において、子どもの見方・考え方にひたすら近づこうとするのです。

これは、教師自身が子どもの内面をテーマに主体的・対話的で深い学びをすることなのです。子どもの主体的・対話的で深い学びを促す教師である為には、まず教師自身がこの新しい学習観を経験し、その力を養っていくことが求められるという認識のもと、附属特別支援学校では、「学びあいの場」と称した教員研修プログラムを研究開発し、これを発信しています。

## 従来の授業研究

A君が～できるためにはどうしたら…

こうしてみたら・・・

こんな方法もあるよ・・・

授業者

そうなんだあ・・・

**“教えあう”授業研究**

参観者の捉えや気づきを基にアドバイス

**「支援方法」に焦点化した問題解決型**

## 「学びあいの場」

A君はそのとき何を考えていたのだろう

あのと  
A君が○○したのは  
なぜだろう？

A君が○○と言ったのは  
△△だからではないか？

授業者

私は、A君が○○と言ったのは  
△△だとばかり思っていたけど、  
もしかしたら□□だったかも…

**“聴きあう”授業研究**

子どもの姿から  
みんなで子どもの考えに近づこうとする

**「子どもの内面を捉える力」を高める問題発見型**

転換

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

# “聴きあう”ことで、子どもの内面を推察するとは…？

## (例) 小学部 遊びの指導 「フラフープリレーをしよう」の一場面

グループに分かれ、作戦ボードでリレーの順番を決める場面のことです。M児は一人で名前カードを貼り、順番を決めてしまいました。友達に「みんなで決めよう」と言われましたが、何も言わずに作戦ボードを抱えていました。



Mくん

※「学びあいの場」では、授業で気になった子どもの姿を「青ラベル」に、その解釈を「赤ラベル」に書きます。

M児は「これじゃないと負ける」と小さい声でつぶやいた。その後は作戦ボードを抱えて、友達に渡さなかった。



A 教諭

これまでの対戦の経験から考えて名前カードを貼ったのではないか。これ以外は負けると思っているのではないか。

M児はボードに名前カードをペアにして貼った。友達に「みんなで決めよう」と声を掛けられても、ボードを握ってしゃべらなかった。



B 教諭

M児は、普段からK児と仲良しだからペアでやりたいけど、友達の意見を聞くと却下されると思ったのではないか。

M児は、一番にボードをとって名前カードを貼った。K児やS児が「みせて」といったり、背中をぼんぼんしたりしても、ボードをぎゅと握って話さなかった。



C 教諭

自分の思い通りにしたかったのではないか？

M児は自分の思いどおりにしたいとばかり思っていたけれど、チームが勝つためのことを考えていたり、K児への思いが強かったりしたのかもしれない。また、今まで、ボードをみんなに見せたら替えられたこともあったので、見せたくなかったということも考えられます。

次の時間は、M児の思いを聴いて安心してボードを見せられるよう働きかけてみようと思います。

授業者



A 教諭、B 教諭、C 教諭も同じMくんの様子を取り上げました。前後の場面と合わせて、Mくんの友達と関わる様子や表情、つぶやきから、Mくんの内面を想像するのです。見る角度や、タイミングなどによって、三人の見え方がずいぶん異なってきます。なぜそう思ったのかを聴きあうことで、授業の中のいろいろなMくんの姿が浮かび上がってくるのです。

このように、授業者自身が気づいていない子どもの実態に気づくためには、授業者一人では難しく、参観者の支えが必要です。そして、自分とは異なる「見方・考え方」があることに気づき、自分の思い込みや考え方の偏りを発見します。このことが教師の子どもの「見方・考え方」を豊かにすることにつながります。